

第15回 北海道 小・中・高生 短歌コンテスト二次審査通過作品（通過250首中、入選以上を除く164首）

小学1～3年生の部

1	夜の道トンネルとってもあかるいねトンネルでたらまっくらだよ	旭川市立愛宕東小学校	3年	志田みのり
2	へび花火まほうのまじんのけむりでた音がぱちぱちママといっしょに	旭川市立豊岡小学校	2年	菅原 華帆
3	かぶとむし広い森でかくれんぼぼくが見つけた木と木のあいだに	旭川市立豊岡小学校	2年	富山 大
4	おかあさんいつもしごとだたいへんだてつだってあげるむずかしすぎる	旭川市立豊岡小学校	2年	村上 絢音
5	雨の音ざあざあふるよいい音だ雨にあわせてダンスをおどる	岩内町立岩内西小学校	3年	熊野 愛結
6	水あそびかきごおりたべなつきぶんせみのなきごえもうしょなきぶん	岩内町立岩内西小学校	3年	佐竹 悠凜
7	こおろぎがジリジリとなく大がっしょう耳をすませばうたがきこえる	岩内町立岩内西小学校	3年	新村 康太
8	打ち上げて心の花火高くまうそれからみんないい気もちだよ	岩内町立岩内西小学校	3年	矢野 蒼弥
9	おみやげはせなかの日やけ足のきず母さん入れたカルピスうまい	北広島市立東部小学校	3年	多門 康太
10	キャンプでねミヤマクワガタつかまえたおとうさんとバナナのしかけ	札幌市立新琴似小学校	1年	青山 湊
11	夏休みうみでのキャンプすなはまですいかわりしていっぱいたべよう	札幌市立澄川南小学校	3年	小西 晴希
12	あつい日の黒いドアノブやけどするだれあけようかじゃんけんだ	札幌市立澄川南小学校	3年	広沢 希寧
13	おやどりがはねをひろげそらたかくとびたつまえにふりむくひなに	札幌市立澄川南小学校	3年	細川ほたる
14	夏まつりみんなでおどるぼんおどりやたいで買ったわたあめたべる	札幌市立澄川南小学校	3年	本間 翔
15	はじめてのしんかんせんはかっこいいめにとびこんだみどり・あか・しろ	札幌市立八軒北小学校	1年	工藤 祐惺
16	ストレッチからだおりまげ三かくにわたしのからだゴムみたいだな	札幌市立発寒西小学校	2年	庄司 茉弥
17	プニプニの森のきのこを見つけたよげいじゅつてきなカラフルなかさ	札幌市立平岡南小学校	2年	伊藤ひかり
18	白亜紀にもしも行けたらきょうりゅうの歯の大きさを調べてみたい	札幌市立伏古小学校	3年	吉原 悠吾
19	おとうさんのむシヤンパンはジュースみたいたんさんシュワシュワよだれがでそう	札幌市立真駒内桜山小学校	3年	本間 正輝
20	あいのははお茶にもできるいいかおり食よくそるああおいしいな	札幌市立円山小学校	2年	西岡 莉央
21	夏休みせんぷうきをつけたけどぜんぜん意味ないあつすぎる	中富良野町立旭中小学校	3年	長谷川大翔
22	きぬさやのまっしろい花みができたグングンのびてわくわくしちゃう	北海道教育大学附属札幌小学校	2年	伊丹 公優
23	おにごっこぼくが一番すきなのはふやしおにだよにげきりたいな	北海道教育大学附属札幌小学校	3年	石坂 陽絆
24	流れ星雲のない空きれいだなねがいこめるかなうといいな	北海道教育大学附属札幌小学校	3年	平間 尊

小学4～6年生の部

25	たのしみは本という名のぼうけんを日が暮れるまで読み終わる時	旭川市立旭川小学校	6年	武藤 匠
26	レジ袋お金を取るがしょうがない三円四円五円六円	芦別市立上芦別小学校	5年	阿慈知ほのか
27	七五三真顔はずかし親ひっしかりに笑う私笑わず	芦別市立上芦別小学校	5年	佐々木星那
28	寒い中彼女の小さな手を握り小声になった告白の言葉	浦河町立荻伏小学校	4年	深澤 魁
29	たのしみはわきにはさんで熱測りピピッと鳴ってわき開く時	遠軽町立白滝小学校	6年	平岡 拓樹
30	たのしみは買ってもらった自転車でいこいの森へこいでいく時	遠軽町立丸瀬布小学校	6年	松川 太陽
31	カラコロとビー玉の音ラムネの瓶一口飲めばずしげな音	小樽市立奥沢小学校	4年	梶谷ほのか
32	家プールすきとおる水いもうとと口青くして顔を見あった	小樽市立幸小学校	6年	石垣 結愛
33	夏休み墓参り行き水をかけ太陽の下見守られている	小樽市立幸小学校	6年	森 真都
34	気持ちいいガリガリバリリこおり割る砕氷船で阿寒湖の春	釧路市立鳥取西小学校	4年	山根 悠聖
35	まっ黄色ばあちゃん作るたまごやき食べたしゅんかんパワーみなぎる	札幌市立丘珠小学校	4年	内山 怜
36	キラキラとかがやくまちなみ見下ろした函館山のきれいな夜景	札幌市立開成小学校	5年	松岡 栞穂
37	木刀ですいかを割ってもバラバラに大小さまざま不平等	札幌市立幌南小学校	6年	今達 大晴
38	せみしぐれ耳をすましてまどあけて初夏を伝える朝のアラーム	札幌市立幌南小学校	6年	上田 陽大
39	思い知る日常日々のありがたさ早く再会願う毎日	札幌市立幌南小学校	6年	齊藤 大馳
40	パラパラとめくれるノートいやだけどつけなきあつこのせんぷうき	札幌市立幌南小学校	6年	佐藤 萌夏
41	好きな本何度読んでもおもしろい不思議な世界へ行ける切符だ	札幌市立幌南小学校	6年	林崎 莉央

42	夏休み行くよ楽しみ夏の海しょっぱい水がぼくをよんでる	札幌市立幌北小学校	4年	池田 悠馬
43	夏の日にみどり葉ざわわ風すずし森の中はね天ねんクーラー	札幌市立幌北小学校	4年	大久保 碧
44	二重とびコツをつかんでがんばろうぼくでもできたきみもできるよ	札幌市立幌北小学校	5年	川村 煌
45	焼き芋の湯気でくもったその奥に甘さ引き立つ黄色のイチョウ	札幌市立琴似小学校	6年	小倉 もも
46	帰り道つくし集めて卵とじ下処理調理母の頑張り	札幌市立琴似小学校	6年	橋本彩咲来
47	森の中草木にとまる虫たちよオーケストラは月光の下	札幌市立琴似小学校	6年	原井 絢叶
48	「ほらそこだ。」虫とりあみを空へGO！つかまえられた？入っていたよ！	札幌市立札幌北小学校	4年	大谷 和奏
49	にじかかるオーロラみたいできれいだな七色なのが自分のこのみ	札幌市立札幌北小学校	4年	釣部 准一
50	夏の星ベガアルタイルデネブ見えきれいな夏の大三角	札幌市立札幌北小学校	4年	西野 水音
51	春の風桜の木からまいおちる花びら染めるもも色の道	札幌市立札幌北小学校	4年	森下 凜花
52	木曜日じゅくの終わった帰り道家路を照らすまっ赤な夕日	札幌市立札幌北小学校	4年	山本 晴喜
53	休日に家族で向かう田舎町道の途中で鹿こんにちは	札幌市立篠路小学校	6年	相原 凜奈
54	おぼんだま祖父母にもらい喜ぶがすぐさま母にあずけておわり	札幌市立篠路小学校	6年	土生 一慶
55	しあわせだ家族と共に同じ部屋同じ時間を過ごせるだけで	札幌市立篠路小学校	6年	山田 隆太
56	柔道の決勝戦が始まったすきをつかれて空を見る僕	札幌市立新札幌わかば小学校	6年	鈴木 尊文
57	ベランダで小さな太陽光ってるしゅうかく間近のきいろイトマト	札幌市立中の島小学校	6年	大塚 千秋
58	たのしみは外から帰ってシャリシャリと白銀の山が赤くそまる時	札幌市立二十四軒小学校	6年	青柳 賢晋
59	色あせた思い出ブック見つけ出しまぶたのおくでおまごとする	札幌市立発寒西小学校	5年	天間あかり
60	夕刻の紅葉彩る帰り道空も地上も赤くなりけり	札幌市立平岡公園小学校	5年	齋藤 莉子
61	鯉のぼり糸より上にのぼりけり糸が千切れて空高く飛び	札幌市立伏古小学校	6年	三枝 皇太
62	祖母の家近くに紫陽花咲きほこり季節伝えに来てくれたかな	札幌市立伏古小学校	6年	若狭 結菜
63	冬の朝澄んだ空気に溶け込んで東雲色の朝日に染まる	札幌市立藤の沢小学校	6年	大村 はる
64	暑い夏セミのロックでパーベキューカエルの演歌で星をながめる	札幌市立伏見小学校	5年	小池 拓武
65	やっときた！ずっしり重いぴちぴちとはねる体は海のおいだ	札幌市立伏見小学校	5年	廣瀬 遼太
66	午後三時グミを一つぶムニムニムニムニ弾力楽しむ至福の時間	札幌市立山鼻小学校	5年	矢花 優
67	よかったな算数テスト満点だ次は給食おかわりしよう	佐呂間町立若佐小学校	6年	平戸 凌輝
68	ひまわりの真っすぐのびた姿見て暗い出来事明るく前へ	室蘭市立みなと小学校	6年	池田 愛

中学生の部

69	草原に寝転んでみて気がついた青空広く僕はちっぽけ	旭川市立桜岡中学校	2年	前田 咲姫
70	散歩中小川の横でトコトコと一緒に歩くカモの親子	旭川市立緑が丘中学校	2年	植村 日咲
71	幸せの糸で家族を包みこむそれは娘の私の役目	旭川市立緑が丘中学校	2年	齊藤 美結
72	帰り道一人で乗ったブランコとボーンと歌う夕焼けの鐘	旭川市立緑が丘中学校	2年	村上 綺音
73	雪溶けて足もと見ればアスファルト割って出てきた一輪の花	厚真町立厚南中学校	2年	高畑 光里
74	夕ぐれに風にふかれて髪なびく君の背中が何かせつない	網走市立第三中学校	2年	中山 頼河
75	水でっぼうこちらへ向けられよけきれず緑の服は水玉模様	安平町立早来中学校	2年	島影 寿々
76	こんにちは話しかけるとポコポコとリズムかなでる一つの命	石狩市立樽川中学校	2年	佐藤 結月
77	蝉時雨夏よ夏よと告げる声楽しみに待つよ打ち上げ花火	石狩市立樽川中学校	2年	滝口 開斗
78	過ぎていく時計の針が回ってる焦る自分とのんきな白紙	岩見沢市立上幌向中学校	2年	坂下 一聖
79	「あっそうか」問題解けたその時に達成感が私を満たす	岩見沢市立上幌向中学校	2年	八城 吏玖
80	春になり通学路に咲くしばざくら集まって咲く小さな命	音更町立緑南中学校	2年	越谷 遥
81	照りつける日差しの下で走り抜く皆でつなが一つのバトン	上富良野町立上富良野中学校	2年	山本 翼
82	弱い私反抗できない反抗期最大の反抗返事をしない	北広島市立緑陽中学校	2年	三浦 花音
83	闇の中ほのかに光る二等星一位じゃなくてもいいんじゃないかな	北見市立東陵中学校	2年	大口 千翔
84	授業中好きな子見ていたこっそりときどき目が合い気持ちたかまる	北見市立東陵中学校	2年	坂井 菜桜
85	先輩があめちゃん持ってやって来た握手した秋思い出す今日	北見市立東陵中学校	2年	林 美空
86	コンコンとラリーの音がひびきあう友と奏でる青春の音	北見市立東陵中学校	2年	八幡 悟史

87	夏の日の一で居残り放課後に風吹き抜ける生徒会室	清里町立清里中学校	2年	小野寺咲良
88	十三年闘病の末逝く祖父や読経の中で我のみ泣けず	札幌光星中学校	1年	岡本 佳晃
89	協力しみんなでつなぐこのバトン熱い思いがゴールへ届く	札幌市立青葉中学校	2年	佐々木唯花
90	友人とマスクをはずし笑いあうそんな日常待ちどおしいな	札幌市立北野中学校	2年	津田 琴音
91	うるさいと注意されてた少し前今や沈黙給食時間	札幌市立北野中学校	2年	本間 海結
92	毎日の七時間授業憂鬱だ息も不満もマスクの中に	札幌市立信濃中学校	1年	前田 涼太
93	見下ろせば地面にたまる雨水に傘さす二人映って笑う	札幌市立澄川中学校	2年	岩倉 涼花
94	流れ星夏の夜空に消えていく願いを込めてそっと見つめる	札幌市立澄川中学校	2年	北島 凌乙
95	なぜだろう毎年思うこの気持ち夏ってこんな暑かったっけ	札幌市立澄川中学校	2年	千本 芙友
96	「ありがとう」その一言で救われたそれをあなたはきっと知らない	札幌市立澄川中学校	2年	中原 流星
97	ラケットを握る手赤く色付いて燃える夕日が心励ます	札幌市立月寒中学校	2年	内田 実弓
98	いつかくるそう思っても来ないものメロン二玉いれた宅配	札幌市立月寒中学校	2年	笠井 桃花
99	宿題の最後のページ写し出す麦茶のにじみ夏の思い出	札幌市立真駒内中学校	1年	松田陽向子
100	みずうみで踊るさかなはゆらゆらと砂をまき上げ銀に輝く	札幌市立真駒内中学校	2年	池西竜太郎
101	潮風に海の青さが煌めいて暑さ忘れる黄金岬	札幌市立真駒内中学校	2年	佐藤 廉太
102	少年とヒマワリ達の背比べを遠くで見てる雲の峰かな	札幌市立真駒内中学校	2年	松井 紗
103	じいちゃんが打ったボールは高々と飛行機と重なるまぶしい日差し	千歳市立千歳中学校	2年	五十嵐あい
104	家事こなしいつもたがう父のこと前世はきっと専業主婦	千歳市立千歳中学校	2年	伊藤 愛莉
105	自肅中お散歩がてら公園のブランコにのる時間(とき)を忘れて	千歳市立千歳中学校	2年	河上公充子
106	好きな人、いないの？と君が聞けけれど言えるわけない好きだよなんて	千歳市立千歳中学校	2年	喜多愛梨寿
107	ぼくの手には夏夜のきらめき閉じこめるラムネの香りが残ったビー玉	当別町立西当別中学校	2年	小貫 幸乃
108	鈴ならしかけよる姿いとおしい赤い首輪にきれいなひとみ	洞爺湖町立虻田中学校	2年	松原 生和
109	妹と喧嘩するとよく言われる大人気ないってまだ大人じゃない	苫小牧市立明野中学校	2年	酒井 来香
110	下を向き「ただいま」と言うとおかえりと迎えてくれる家族の温もり	苫小牧市立明野中学校	2年	原口 彩那
111	忘れればいいんだよって言うように突然雨がさらさら降った	苫小牧市立明野中学校	2年	増田 妃奈
112	街路樹の間からこぼれた木漏れ日がぼくのこころもいやしてくれた	苫小牧市立青翔中学校	2年	照屋 樹
113	ホワイトデー感謝の気持ちのクッキーでこんがり焼けた私の心	苫小牧市立和光中学校	2年	伊藤紗矢香
114	木漏れ日とやさしい風にふかれつつひとりの時間一冊の本	苫小牧市立和光中学校	2年	梅田 真緒
115	睡魔来て漢字練習倒れたら「道」の字伸びる僕の未来も	苫小牧市立和光中学校	2年	齊藤 大貴
116	釣り竿の先が丸まり大慌て今も感じる夏の手応え	苫小牧市立和光中学校	2年	菅原 心里
117	暗い日も私と傘は向日葵だ光に向かって雫をはじく	七飯町立七飯中学校	2年	佐藤 寧々
118	鳴りひびくチョークの音がこもり歌みんなスヤスヤ静まる教室	名寄市立名寄東中学校	2年	金住 絢奈
119	真夏日に勝利とボールを追いかけて砂にまみれた私の帽子	名寄市立名寄東中学校	2年	與田百々花
120	たんぽぽの黄色がふわり春を告ぐ綿毛がふわり夏を告ぐ	仁木町立仁木中学校	2年	新見 剛大
121	パラパラとめくるノートの片隅につづる思い出卒業までを	西興部村立西興部中学校	3年	有我俊太郎
122	「疲れた」と日々口ぐせでつぶやくが生きてるだけで幸せな今	登別市立登別中学校	2年	田口 蓮実
123	夕暮れに枝先とまる赤とんぼ響く鐘の音辺りしずまり	函館市立亀田中学校	2年	白土 春花
124	三百の蟬が麗し声を出し花も咲き出し夏の振り出し	函館市立亀田中学校	2年	林 璃來
125	最終回守れば勝ちのこの試合力を合わせてつかんだ勝利	函館市立本通中学校	2年	奥山 知祐
126	リモートで教えてもらう勉強をコロナ禍で知る兄の偉大さ	函館市立本通中学校	2年	瀧 惟織
127	忘れ得ぬ今なき祖母の逝き方に気づかされぬ己の生き方	北海道教育大学附属函館中学校	2年	工藤 蒼依
128	お日様がやわらかに当たる窓のそば眠りに落ちる一匹の猫	北海道教育大学附属函館中学校	2年	角 羽麗
129	ありがとうさびしいけれどさようならずっとがんばれ八雲の校舎	北海道手稲養護学校三角山分校 中学部	2年	伊藤 聖矢
130	庭球部ラケット振り抜きネット超えナイスボールの掛け声響く	室蘭市立東明中学校	2年	川村 孔威
131	妹と砂浜走る夏の海ついた足あと波で消される	立命館慶祥中学校	1年	古川 楓望
132	防疫に赤毛サムライ母は立つ華奢な背中で白衣靡かせ	立命館慶祥中学校	3年	ベネデックアシュリー 理人

高校生の部

133	ふるさとを離れていくは我友よ見送る我ら心苦しけり	帯広北高等学校	1年	石川 怜
134	久々の遠出旅行しみじみと幸せ感じる家族の時間	帯広北高等学校	1年	甲山 綾
135	学校で書かされてきた短歌の数量だけ見れば万葉集	帯広北高等学校	2年	大高梅之介
136	セミの声一生けん命ひびかせるみじかい命楽しみめ楽しみめ	帯広北高等学校	2年	椎名 幸成
137	汗流し日々の練習積み重ね楽器に映る青と太陽	帯広北高等学校	2年	榎切澤さち
138	そよ風と窓から見える赤い空コップの氷カランと鳴った	帯広北高等学校	3年	伊藤 亜光
139	背の丈の変化は柱が示してる心の変化はどこに示そう	帯広北高等学校	3年	稲邊 美優
140	卒業式三年着ていた制服と親しい友とも今日でお別れ	帯広北高等学校	3年	井村 愛美
141	さようなら夢と消えたよラストラン思い出くれた鉄道車両	北海道旭川工業高等学校	1年	田中 碧
142	コロナ舞い休校になり思い出す日々の楽しさ友との時間	北海道旭川工業高等学校	1年	松尾 柚
143	この試合日々の努力をそそぎこむボールを繋ぎ決める一点	北海道旭川工業高等学校	1年	吉井 力斗
144	りんごあめ君からもらうはいどうぞきつと二人は真っ赤な金魚	北海道小樽未来創造高等学校	1年	江刺家紗彩
145	あの日見た海を眺める僕の横いるのは少し背が伸びた君	北海道小樽未来創造高等学校	1年	菅池 亜季
146	太陽の光をあびてまっすぐなひまわりを見て貴方を想う	北海道小樽未来創造高等学校	1年	三浦 久遠
147	仏壇に供えたムクゲ懐かしい白い手のひら思い出重なる	北海道小樽未来創造高等学校	2年	麻績 綺音
148	窓を開け入りこむ風涼しくて夜空を見れば三日月ぼつり	北海道小樽未来創造高等学校	2年	坂井 優希
149	思い出すステージからのあのけしき今年は潮の太鼓が聞こえず	北海道小樽未来創造高等学校	2年	佐川 柚葵
150	ニメートルコロナで空いたその距離は見えない壁で二人をはばむ	北海道小樽未来創造高等学校	3年	古山 和人
151	時ながれもどれもどれと願っても今を生きるに意味がある	北海道釧路工業高等学校	2年	浅利 陽花
152	ありがとう笑顔で言われいやな人誰もいないよ魔法の言葉	北海道釧路商業高等学校	2年	森田 桃奈
153	夏の海二人で作ったりんご飴思い浮かぶは町のお祭り	北海道釧路商業高等学校	3年	黒川 理子
154	自転車で走り抜けてく並木道止まって気づく桜の薫り	北海道札幌白石高等学校	2年	石塚 彩菜
155	高い未来首が痛いと嘆くより届く距離から一步前進	北海道札幌白石高等学校	2年	加藤 桃子
156	外見るとすでに咲いてる桜の木部屋で知るの少し寂しい	北海道札幌白石高等学校	2年	西本 涼夏
157	桜咲く世界に桜はいつ咲くのいつか絶対満開になる	北海道札幌白石高等学校	2年	山本 夏帆
158	反対岸に立って見ている小学生へ虹色に光るしゃぼん玉吹く	北海道千歳高等学校	2年	三浦 奏愛
159	家事仕事励むあなたにマスク感謝の気持ち一つぶどうぞ	北海道函館五稜郭支援学校	3年	佐々木愛由
160	線香のかおりにふっと憶い出す笑顔の祖母とまたたくホタル	北海道富良野高等学校	1年	奥田 早茅
161	ペルセウス夜空流れる光の矢心に刺さり琴線にふれる	北海道富良野高等学校	1年	久保 翔暉
162	祖母の家みんなで集まり手持ち花火思い出のこる色どる夜	北海道富良野高等学校	1年	今野 遙也
163	あと四分チャイムがなっておわっちゃう君の横顔眺める時間	北海道富良野高等学校	1年	笹 愛佳
164	永遠にとどきもしない存在に気づいていても変わらぬ想い	北海道富良野高等学校	1年	嶋崎結衣奈